

かけだしの頃

今だから話せる
ゲンバの失敗
5



入社2年目の頃
現場事務所での1枚

大豊建設株式会社 東京支店
土木部 東雲シールド作業所 所長

平形 和広

1983年（昭和58）年、大豊建設株式会社に入社。以来、大半を地下鉄・シールドトンネル等の工事で研鑽を積む。座右の銘は「前へ！」



会社に入って次の年のことです。ある水力発電所の新設工事で、鉄管路を支える「小支台」というのを造り直した経験がありますよ。

鉄管路と小支台というのはおわかりになりますか？ 山の斜面に太いパイプを通して、山の上に溜めた水を一気に落として発電する施設があるでしょう。その発電用の太いパイプのことを「鉄管路」、その鉄管路を支える基礎のことを「小支台」といいますが、要はその小支台で失敗したことがあります。

額末はこうです。小支台は山の中腹などの地山を切つて場所を確保し、そこに鉄筋と型枠を立ち上げてからコンクリートを打設して造りますが、その打設前の検査で合格を確認せずにコンクリートを打つてしまい、発注者から作業の中止命令を受ける事態に陥ってしまいました。

実はその失敗は、問題の小支台を造るときにもう一つほかに同時に施工している台があって、コンクリートも一緒に打つてしまおうとしたことに端を発しています。つまり、二か所同時にコンクリート打設前検査を受けなければなりません。そのとき一か所は「問題なし」として合格し残り一つは型枠の内側の清掃が不十分であるとして「打設前にしっかり清掃してください」と指示を受けていた。そこで私は「ちゃんと清掃さえしておけば問題ないだろう」と考えて、「合格」

の一言を聞かぬままに安易に作業を進めてしまい、事実上のやり直しを命じられてしまった、というわけです。

発注者の検査官にしてみれば、しっかり清掃しろと言ったのは「後でもう一回見せてくれ」という意味であつて、決して合格させたつもりはない。ところが、こちらは「清掃さえしておけば問題ないだろう」と考えて、先方の本意の意図さえ探らうとしなかった。「そこに大きな隔たりはなかったか」と指摘されても、反論できないほどのミスといえます。

結局、検査に合格していないものは受け取れない」として、とうとうその打設は認めてもらえませんでした。認めてもらえないということはその前の状態に戻せということ。壊して最初から造り直すのと同じですから、すいぶんと周りに迷惑をかけてしまったことを覚えていました。

「確認」とは、確かめはつきり認めることですが、自分勝手の確認であつては決していけない。現場では部下に「しっかり確認しろ！」とよく言いますが、確認という行為は相手があるものである以上、「相手の立場になつて物事を考えることが大切である」ということが、この失敗から得られた教訓かもしれません。

その後、協力会社の作業員さんから、作業進めていいなんて言つてるけど、また壊すことになるんじゃないの、なんて、よくからかわれたものです（苦笑）。若い頃のとて苦しい思い出です。

